

福音書に記されている物語は大きく3つに分けることができます。それは、主イエスの教え、主イエスのたとえ話、そして主イエスの奇跡です。

このうち教えは、人々に対して主イエスが直接語られたことで、語られたのは当時の教えの場所として設けられていた会堂ではなく、ある時はガリラヤ湖畔で、ある時は丘の上で、ある時は町の中で人々が集まっているところで語られました。

たとえ話は、神の国について私たちが知る貴重な手がかりです。イエス様は神の国について、私たちがよく知っている存在を用いて語られました。種まきのようなものと、パン種のようなものであると、農作物の成長にたとえられると、ガリラヤの人々誰もがよく知っている風景を用いて神の国について語られたのです。

そして奇跡は、神の国の力をこの世界に実際に働かせた出来事として伝えられています。人間の力では出来ないこと、常識では考えられないことが主イエス自身によって行われたことを示すこの奇跡物語は、神の国の力に人々が直接接触する貴重な機会となり、多くの人々にそれが伝えられていったのです。

主イエスの宣教活動はどれも重要なことでありましたが、人々を最も引き付けたのは奇跡であったと言ってよいでしょう。主イエスによって行われた奇跡の中で、最初に行われたのが本日の福音書に選ばれておりましたカナの婚礼での奇跡です。

結婚式は時代を問わず大きな喜びと祝いの時です。現在はそのためのサービス業も多くありますし、教会でも聖書の教える結婚、家庭についてよく学んで新しい生活を踏み出してほしいと願っていることから、信徒の方はもちろんのこと、教会とは普段つながりのない方の結婚式も行います。イエス様がおられたユダヤの国でも結婚式は大きなお祝いでしたが、当時はサービス業がありませんので、結婚式での食べ物やお酒（お酒と言っても当時ユダヤにはぶどう酒しかありませんでしたが）の準備は新郎新婦が自分たちでせねばなりませんでした。また始まりの時間も決まっておらず、準備ができたなら、招いている人たちにかかりの人たちが知らせに行くことになっていました。なんともんびりした中でのお祝いだった様子がうかがい知れます。

今回はガリラヤのカナという町での結婚式で、イエス様とその家族、そしてイエス様の弟子たちが招かれていました。おそらくはイエス様の母マリヤの縁戚にあた

る人の結婚式だったのでしょう。お祝いが始まりましたが、何の手違いかぶどう酒が足りなくなり、台所から騒ぎが聞こえてきました。結婚式の食べ物やお酒の準備は新郎新婦の仕事ですので、せっかくのお祝いの結婚式なのに、新郎新婦が十分なお酒を用意できず、喜ばしい門出の日が大変な危機に陥ってしまったこととなります。その状況がよくわかっている台所の人たちが騒ぎ始めたのは当然のことでした。

イエス様はそこへ行き、家に帰ってきて身を清めるために水をいれるために用意されている瓶に、水をいっぱい入れるように言います。こんな非常時になにをのんきなことをと思った人もいたようですが、マリヤは人々に、イエス様の言うことには何でも従ってくださいとお願いしていましたので、人々は言うとおりにしました。水は瓶の縁まで満たされました。そこでイエス様は「さあ皆のところへ持って行きなさい」と言いました。

人々のぼかんとした様子がうかがい知れます。人々が求めているのはぶどう酒なのに、今ここに満たしたのは水ではないか、いくらなんでも水を皆のところへ持って行くわけにはいかないだろう・・・、と違って味見をしてみたところ、なんと瓶の中に入っていたのはぶどう酒だったのです。

これはいったいどういうことだと人々が驚いたのは当然のことですが、とにかく今は皆のところへ必要とされているぶどう酒を持って行くことが先決だと、僕たちはぶどう酒を運んだのです。

僕たちは、このぶどう酒が自分たちの汲んだ水をイエス様の奇跡によってぶどう酒に変えられたことを分かっていましたが、宴会の世話人は、ぶどう酒の不足のことしか知りませんでした。改めてふるまわれたぶどう酒がとてもおいしく素晴らしいぶどう酒だったので、新郎新婦を呼び、こんな素晴らしいぶどう酒を取っておかれるのはなんと素晴らしいことかと驚嘆し、危機に陥ったはずの結婚式は、さらなる祝福のうちに終えることができたのです。そして世話人が、どんな人でも最初に良いぶどう酒を出して、酔いが回った頃に劣ったぶどう酒を出すものだと言っていますけれども、いつの時代もずるいことをしようとする人間の思いは変わらないのだと、ヨハネを通して私たちは日々の行いを反省させられます。

イエス様の奇跡は、私たちのどんな困難をも救ってくださり、一層の祝福で包んでくださるのを、このカナの婚礼の物語は示しています。奇跡物語はその業がどのように行われたのかが重要ではなく、神様の力は私たちのどんな困難をも救い、一層の祝福で包んでくださる真実を私たちが学ぶことであるのを、本日は改めて覚えたいものです。